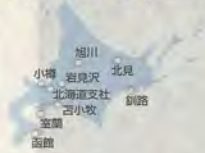


北海道



北海道支社 〒060-8656
札幌市中央区北4西4-1
電話011-242-3111(代表)
編集部 電話011-231-1775
Fax011-222-0490
hokkaido@yomitiuri.com
〒040-0041
函館支局 函館市栄町6-4
電話0138-22-3318 Fax22-6667
旭川支局 〒070-0031
旭川市1条通9右10
電話0166-26-0435 Fax24-2848
釧路支局 〒085-0035
釧路市共栄大通8-1-2
電話0154-22-4111 Fax25-0594
小樽支局 〒047-0024
小樽市花畑4-22-21
電話0134-22-3174 Fax22-3176
北見支局 〒090-0018
北見市青葉町5-1
電話0157-23-2531 Fax61-4415
苫小牧支局 〒053-0022
苫小牧市表町4-1-6
電話0144-37-4356 Fax37-3550
室蘭支局 〒050-0074
室蘭市中島町1-19-1-402
電話0143-47-6667 Fax47-6668
岩見沢支局 〒068-0024
岩見沢市4条西8-1
電話0126-22-6501 Fax22-6502

購読は **0120-4343-81**
広告申し込み 電話011-231-4667
折込チラシ 電話011-251-1761

■あすの暦
4月20日(水) 通白111
旧 3月14日<仏滅>
月齢12.7(正午)

	日出	日入	月出	月入
札幌	4.45	18.23	16.29	3.53
函館	4.49	18.23	16.31	3.56
釧路	4.33	18.11	16.16	3.41
稚内	4.39	18.26	16.29	3.52
釧路				
小樽	2.56	14.52	8.55	21.15
函館	2.22	14.54	8.44	20.46
釧路	2.11	14.36	8.28	20.31
稚内	2.40	14.55	7.22	20.42

TANTO
札幌市中央区3条東2丁目
011-251-7410

イタリアンでキトリ
気軽に一杯…

2500円コースにはご利用いただけません。
ランチタイムではご利用いただけません。

10%OFF
平成28年5月15日迄有効

インフル高熱抑制解明

北大グループ 症状緩和に期待



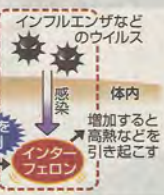
高岡晃教授

インフルエンザなどのウイルスに感染した際、ウイルスの増殖を抑える物質、インターフェロンが過剰に反応して高熱などを引き起こすのを抑える仕組みを、

北大グループ 北海道大遺伝子病制御研究所の高岡晃教授(免疫学)らのグループが発見し、19日、米国の免疫学雑誌「ネイチャーイムノロジー」に発表する。

インフルエンザならに感染した際、高熱やだるさといった症状が出るのは、ウイルスが直接、体に影響する物質と結びつくこと、ウイルスが体内に入った際、インターフェロンの増加を促す特定の酵素に働きかけ、

高岡教授らが発見した「あすの暦」以外の主要地点の満潮干潮、日・月の出入を24日から毎週土曜日に週間分掲載します。



高岡教授によると、食べ物に含まれるアミノ酸を分解した際にできる物質が、体内にある受容体と呼ばれている物質と結びつくこと、ウイルスが体内に入った際にインターフェロンの増加を促す特定の酵素に働きかけ、

高岡教授によると、食べ物に含まれるアミノ酸を分解した際にできる物質が、体内にある受容体と呼ばれている物質と結びつくこと、ウイルスが体内に入った際にインターフェロンの増加を促す特定の酵素に働きかけ、

高岡教授によると、食べ物に含まれるアミノ酸を分解した際にできる物質が、体内にある受容体と呼ばれている物質と結びつくこと、ウイルスが体内に入った際にインターフェロンの増加を促す特定の酵素に働きかけ、

高岡教授によると、食べ物に含まれるアミノ酸を分解した際にできる物質が、体内にある受容体と呼ばれている物質と結びつくこと、ウイルスが体内に入った際にインターフェロンの増加を促す特定の酵素に働きかけ、

高岡教授によると、食べ物に含まれるアミノ酸を分解した際にできる物質が、体内にある受容体と呼ばれている物質と結びつくこと、ウイルスが体内に入った際にインターフェロンの増加を促す特定の酵素に働きかけ、

高岡教授によると、食べ物に含まれるアミノ酸を分解した際にできる物質が、体内にある受容体と呼ばれている物質と結びつくこと、ウイルスが体内に入った際にインターフェロンの増加を促す特定の酵素に働きかけ、

高岡教授によると、食べ物に含まれるアミノ酸を分解した際にできる物質が、体内にある受容体と呼ばれている物質と結びつくこと、ウイルスが体内に入った際にインターフェロンの増加を促す特定の酵素に働きかけ、

高岡教授によると、食べ物に含まれるアミノ酸を分解した際にできる物質が、体内にある受容体と呼ばれている物質と結びつくこと、ウイルスが体内に入った際にインターフェロンの増加を促す特定の酵素に働きかけ、